

町並みかわら版

年頭あいさつ

柳井市白壁の町並みを守る会

会長 木阪泰之

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様には、日頃より柳井市白壁の町並みを守る会の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年10月20日に開催いたしました「重要伝統的建造物群保存地区選定40周年記念事業」では、天候にも恵まれ、多くの皆様にご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。この節目の行事を成功に導いていただいた関係者の皆様ご来場いただいた皆様、厚く御礼申し上げます。

この40年、柳井の白壁の町並みは、地域住民の皆様と行政、そして私たちのような市民団体の連携のもとで守り続けられてきました。これから、この美しい町並みを未来に引き継いでいくために、力を合わせてまいりましょう。

さて、令和7年1月4日には、奈良県

第百巻号
柳井市白壁の町並みを守る会
事務局(皿田治)
Tel. 090-1012-4204

橿原市にある今井町地区を訪問する機会を得ました。同じく重要伝統的建造物群保存地区である今井町は、規模の大きさや保存状態

の違いがありましたが、それゆえに柳井の特徴を再認識する良い機会となりました。例えば、今井町がその壮大な歴史的スケールで訪れる人を圧倒するのに対し、柳井の白壁の町並みは、その親しみやすさや地元の暮らしと調和した風景が魅力となつていきます。そして、柳井ならではの「金魚ちようちん」のように、町並みに彩りを添える地域文化の象徴が、人々の記憶に強く残る特別な存在となつていきます。

金魚ちようちんは、夏の夜にふわりと灯るその光で訪れる人々を魅了し、町全体を一つの大きな物語のように感じさせてくれます。この風景は、単に歴史的建

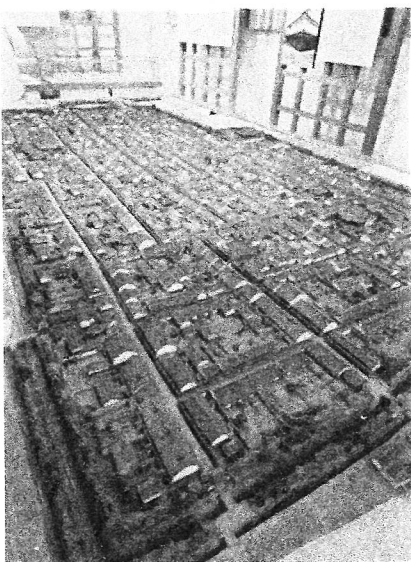


東西約600m、南北約310mの中に美しい民家が数多く立ち並んでいます。

造物を保存するだけでなく、柳井の暮らしや心の文化を伝える役割を果たしていると感じます。私たちはこの「金魚ちようちん」のような象徴をさらに大切にしながら、柳井の独自性を発信していくことが重要だと考えます。

本年も、白壁の町並みを守り、育て、そして次世代に伝えていくための活動を続けてまいります。そのためには、町並みの物理的な保存だけでなく、文化や歴史、そして町を支える人々の思いを大切にしていくことが必要です。今年は特に、地元の若い世代への働きかけを強化し、金魚ちようちんを含む柳井の魅力を未来へつなぐ活動を進めていきたいと思っております。

皆様には、引き続きご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、本年が皆様にとって実り多い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



今井まちなみ交流センター内の壮大なスケールの町並み模型

恒例の年末夜回り実施

事務局長 皿田 治

今回で二十六回目となる白壁の町の伝統行事。本陣は昨年とは異なり我が家の玄関先。引き受けたものの、からくたの山でまずは参加者を収納するスペースを作らなければならぬ。自分ひとりでは動かせないものが多く当会の会員有志に協力を依頼。集まってくれた助っ人のお蔭でなんとかスペース



一日目の出陣式

これで本陣の提灯をかかげれば準備万端と思いきや光源のランタンが点滅モードになって戻らずそのままにしていたところ駄目出しが新聞記者より入る。なんでも本陣の文字がはつきり写ってないと報道写真の絵にならないらしい。ランタンを変えるかどうか思案している。「点灯モードに切り替わりました。」と中国新聞の山本記者。僕だけではなく木阪会長がやっても駄目だったのになんてじゃ。馬鹿力のゴッドハンドの持ち主じゃるか?ともかく一日目は無事スタートすることが出来たのであります。

一日目の十二月二十七日は大人七名、中学生八名、報道機関二名の計十七名、二日目は大人七名、子供八名計十五名が参加。両日とも午後八時及び九時に古市及び金屋の二コースに分かれて見回りを実施。

木阪会長の挨拶、見回りコースの説明、見回りの際に発する掛け声の指導に引き続き白壁通りにおいて恒例となっている出陣式を敢行「いいね、いいね、やない、ね。えい・えい・おー、えい・えい・おー」と気合の入った掛け声が鳴り響き、「ED」で電飾された金魚ちょうちんと拍子木が年末の白壁通りを渡って行くのであった。

三年連続で参加している中学生ボラ

ンティアたちもいて声も大きく元気がいい。オジサン連中は付いて行くのがやつと。宝来橋たもとにある火伏地蔵の前では武居幹事から中学生に対して一七五〇年代から建っている愛宕大権現地蔵の解説授業があり全員で「火伏地蔵さん、火の守りありがとうございます。火のよ〜じ〜ん!」と大合唱の音が鳴り響き年末の恒例行事を無事終えることが出来たのであった。今回初の試みとして中学生ボランティア一人ひとりに感想を発表してもらった。皆さん伝統行事に参加できたことを素直に評価している様子が感じられて嬉しかった。



二日目の出陣式

重要伝統的建造物群保存地区 選定40周年記念講演会

柳井市白壁の町並みを守る会

中本 英宏

令和6年10月20日に開催されました「柳井市白壁の町並み」重要な建造物保存地区選定40周年記念事業では、『みらい』に向けてお話をさせて頂きました。

令和元年に飲食店やないろを開業して早6年以上という月日が過ぎました。地域をまきこみ、子ども達も大人達も一緒になって創っていくお店作りを目指し、飲食店の機能に加え、



40周年記念講演で挨拶する木阪会長

子ども食堂の開催、マルシェの開催、高校生と連携して地域食材を活用したメニュー開発に取り組んでまいりました。

当日はこの間の事例から、地域の子ども達が主体的に取り組んでいる様子これらの活動についてお話しさせて頂きました。地域の子ども達にとって白壁の町並みは観光資源としての視点だけではなく、生活の一拠点、居場所へとも転換してきています。未来を創る、将来の白壁の町並みを担っていく彼ら彼女らにはこの柳井市白壁の町並みでの時間、思い出が重要点だと私は考えます。未来を託す人材と共に過ごした時間から、育成し協力をしていくことが次世代へのバトンとなると日頃の活動から強く感じます。

その為には、この地域を守ってきた柳井市白壁の町並みの皆様、この度の式典でも公演されました三吉様。白壁の町並みの40年の歴史と、この地域の40年以上前のお話しは興味深いものでした。

文化庁からご来柳頂きました梅津様の全国の事例と、この柳井市白壁の町並みへの期待や想いも含め、柳井市全

体で考えていきたい、そして守り繋げていきたい。式典に参加した全員がそう思ったことだと感じます。

式典の開催にあたりまして、当日は朝早くからたくさん地元中学生のボランティアがありました。式典も老若男女の参加。会場に用意した椅子がなくなり、急遽追加する事態になるほど盛大に開催となりました。この式典も開催した瞬間から過去の取り組みとなります。次の世代と私たち世代とこの地域を守ってきた方々。融合して『みらい』創りを進めていく一人でありたいと思います。



井原市長の挨拶

柳井の地図絵図

岸田稔明

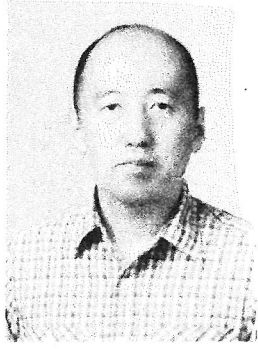
第四十四回 柳井町上水道敷設一件

附属図面 その三 (山口県文書館蔵)

前回は、柳井町の上水道敷設に当たり、黒杭川上流に建設された黒杭水源池を取り上げた。

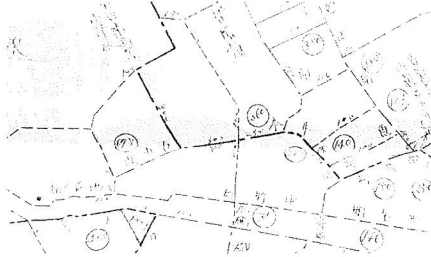
柳井町の上水道は昭和十一(一九三六)年七月十七日に敷設が認可され、同年十二月二十日に起工した。山口県文書館蔵の「柳井町上水道敷設一件」の「柳井町水道計画ノ概要」によると、給水区域は柳井町一円、給水人口は第一期計画で一萬五千人である。配水管の計画は、概ね次のとおりである。

第一幹線は、浄水場から柳井尋常高等小学校(現：柳井小学校)の東側、百十銀行(現：町並み資料館)へ南下し、久保町、亀岡町、土手町、天神、新市、宮本を経て柳井港までとなっている。当初計画では内径最大三百

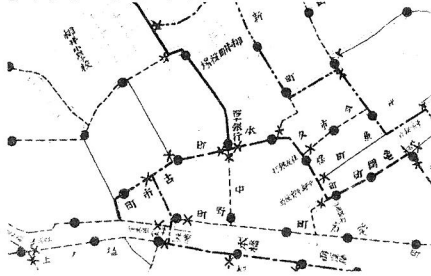


ミリメートルの管を布設する予定であったが、計画変更後は内径二百五十ミリメートルとなった。一方、第二幹線は、尾の

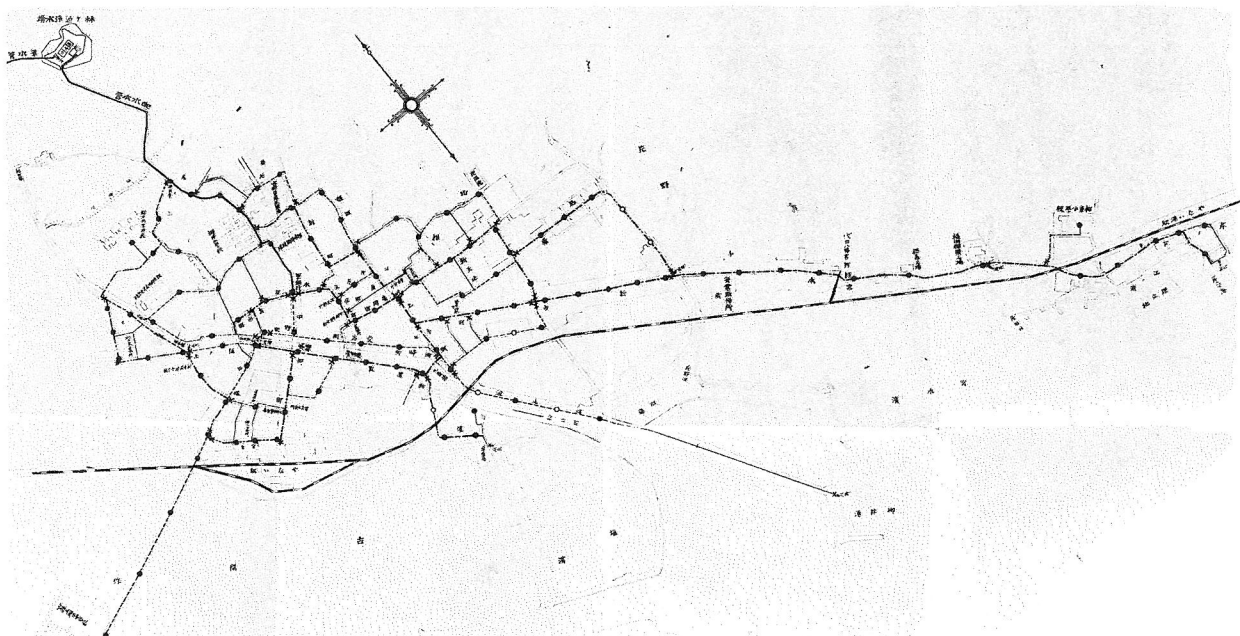
【柳井町上水道給水地域内人口密度平面図 (山口県文書館蔵)】



【下図の拡大図】



上の地藏尊から第一幹線と分岐し、柳井商業学校(現：みどりが丘図書館)を経由し、柳商橋で柳井川を渡り、樋の上交差点から柳西橋に至り、川沿いを宝来橋まで進み、中塚から旧制柳井中学校(現：柳井高等学校)までとなっていたが、計画は後に変更された。また、土手町から柳井川沿いを下り、柳井西港の波止場まで配水された。
なお、土手町、天神、新市や山根、新天地、石原(現：東土手)、千歳、中開作、南浜においては、既に給水開始していた簡易水道給水区域を編入する形で整備された。
ところで、白壁の町並み付近に注目すると、給水計画(左上図)では、現在の佐川醤油店とやない西蔵の間にある直線の道路を国森家住宅まで南下し、白壁の町並み沿いに東へ幹線が通る予定だった。結局町役場(現：サンビームやない駐車場)から南下するルートに変更して完成した(左下図)。これは、この時期に、町役場から百十銀行までの道路が完成したためである。



【柳井町上水道配水管布設平面図(柳井町上水道敷設一件附属図面)(山口県文書館蔵)】
※原図は青地に白線だが、便宜上反転させた。

商都柳井の歴史 その廿四

松島 幸夫

柳井津商人の心(十)

奉公人の心を思い遣る

商売を順調に続け、店の規模を拡大するには、主人の才覚とともに、奉公人たちの努力が欠かせませんでした。今回は、奉公人の心の内を覗いてみましょう。もちろん江戸時代に戻って奉公人に尋ねることはできませんが、推し測ることはできようかと思えます。

一、努力によって生まれる自己有用感

奉公人たちは、来る日も来る日も、汗水たらして働きました。初めは丁稚と呼ばれ、小間使いや荷物運びに大忙しでした。早起きをして店の内外を掃除し、店を開く準備をしました。夜はみんなの最後に風呂に入って、せんべい布団にもぐり込みました。もちろん休日はありませんし、給与もありませんでした。



つらい生活ながらも、丁稚は幸せに感じていたのではないかと察せられます。まずは食事にありつけるこ

とができれば、幸福だったのです。貧しい農家の二男や三男、あるいは未婚の女性には、「口減らし」のために奉公に出されました。親は子どもたちに食べさせるため、商店に頼み込んで奉公人にしてもらったのです。店の主人は時に丁稚を里帰りさせ、その時には幾らかの銭を持たせました。父や母は店での働きぶりを聞いて、我が子の独り立ちを喜びました。父母の満足気な笑みが、奉公人たちの心の励みになりました。

奉公の月日を重ねると、任される仕事の種類が増え、自分の考えが生かせるようになりまます。真面目な働きぶりや工夫をほめられると嬉しくなつて気持ちも活気づきます。やがて信用を獲得し、集金をさせてもらえるようになりまます。集金ができる奉公人は手代と呼ばれます。店の中核を担っているとの誇りが、満足感を高めまました。

さらに修業を重ねると、会計の処理や若い奉公人を管理する任務が加わってきます。そうなるにつれて奉公人感覚に加えて経営者感覚が身に付きます。自分が店を支えているとの使命感で、充実した生活を送れました。もちろん様々な難問がふりかかってくる。客からのクレーム、商人仲間との付き合い、売り上げの向上など、次から次へと解決すべき課題が降りかかってくる。辛い面もありますが、乗り越える度に、努力すれば必ず解決できるとの自信が湧いてきます。問題解決能力が身に着いていくことが嬉しく感じられ、自己有用感が増えてきたことでしょう。

やがて店の主人から絶大な信頼を得ると、番頭になつて経営全般を見渡す立場になります。店を取り仕切る番頭になると自信に満ちて、風格のある顔つきになってきます。

二、番頭になるのは一握り

才覚と努力と真心とが合わさつて番頭にまで出世した人の心の内を垣間見ましたが、それはほんの一握りの人間です。多くの者が途中で初心を忘れ、不平不満を口にします。来る日も来る日も、苦勞続きの毎日ですから無理もありません。慇懃な態度で表面を繕つても、心の内の不満はかならず露呈します。陰での手抜きが見抜かれて信用を失い、暇を出される奉公人が多かつたのです。

三、「のれん分け」

職務を忠実にこなした番頭は、約40歳になつた頃に、「のれん分け」をさせてもらえることがあります。店の主人からは、新規開店の資金が支給されました。「口減らし」のために家を出された奉公人が、自分の店を持つことができたのです。のれん分けは奉公人にとって最高の出世でしたから、この上ない幸福感に浸ることができたことでしょう。長年にわたつて初心を忘れず、苦勞をものともせず、笑顔顔を絶やさず、陰日向なく働き続けた奉公人の心に、拍手を送りたいと思います。

資料館便り

『資料館近況雑感』

岸永啓子

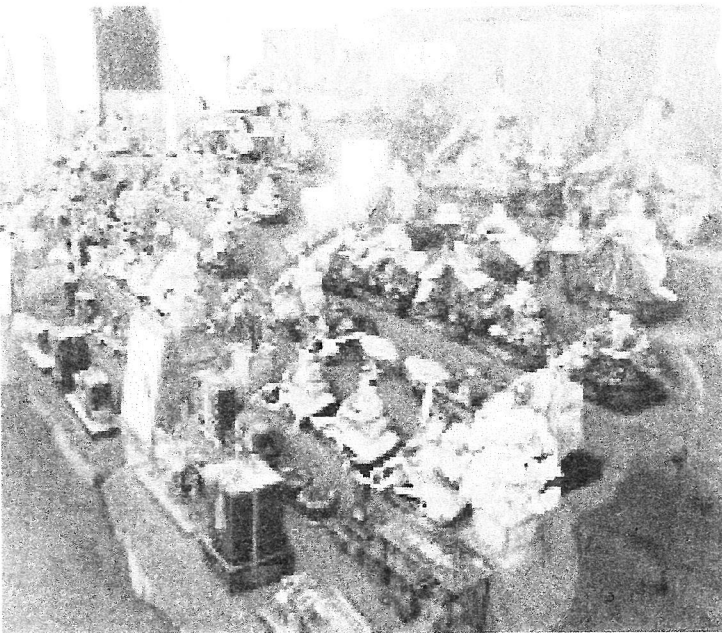
コロナ禍以来ウイルス流行への危機感
は強く、観光業界への打撃は甚大です。

ここ柳井の白壁通りへの観光バスの
乗り入れも大きく減少。町並みの店舗
も営業日数や時間の削減で来訪の方
々に申し訳ない日が重なっています。

最初に資料館を訪ねて頂いた方々
は、立体模型でスポットの説明、金魚
ちょうちんの由来説明、お鐘金魚で
チャリオン、二階の松島詩子記念館の
案内、ハートのフォトスポットでハイ
チーズ、そして行ってらっしゃい。
折り紙金魚も人気で、自作の金魚を
喜んで持って帰られます。ボランティア
アガイドによる個別案内、レンタルサ
イクルでの回周もできます。

最近では遠く北海道から沖縄まで県外
からの方々が多く、一か月かけて山口

県や中国地方を回られています。柳
井を選んで頂いた理由はSNSとク
チコミでした。静かでゆったりとし
た白壁通りは心が落ち着いて安らぐ
と好印象のようです。
二・三月には、資料館内にお雛様
の段飾りが六セット展示されます。
是非お越しになって写真を撮られ
たり、人形の特徴や道具の細工をゆ
くりご覧になってください。
四季折々に祭りを催す文化の町で
す。今年も多くの方々に柳井を楽し
んで頂きたいと願っております。



昨年のおひなさま巡り展示

【編集後記】

★皆さんインフルエンザの予防接種を受けられましたか？絶対
に受けられることをお勧めします。これまで必ず受けて来た
僕がアろうことか今シーズンは受け忘れていたのです。結果
は水鼻、発熱、咳に散々痛めつけられ、松の内にやったこと
と云えば元旦に国旗を出したくらいでほぼ寝正月の体たらく
。後悔先に立たずです。

★木阪会長の年頭あいさつ、中本会員の報告の中においても
地元の若い世代への働きかけを強化していくことの重要性が
強調されていましたが全く持って同感。当会の行事は七夕まつ
りには幼稚園児、八朔の船流し、金魚ちょうちん祭り時のし
らかべかき氷屋運営、年末夜回り等の際には中高生のボラン
ティアに広く参加を呼び掛けてきました。今後とも柳井の白
壁の町並みに今も残る歴史的、文化的遺産の価値を若い世
代と共有し、彼らの力を借りて将来に残していく努力を続け
て行きたいものだ。(事務局 皿田)

令和6年度第3四半期 柳井市町並み資料館入館者数

	令和6年/10月~12月	令和6年12月現在累計
町並み資料館	3,918	338,486
	前年同期比 86%	
松島詩子記念館	694	117,713
	前年同期比 72%	